

広域避難者支援 in 東京

荒川区社会福祉協議会



荒川区人口

206,431人

105,761世帯

面積
10.20km²



荒川区社協が把握する区内に避難されている方

43世帯 116名

25年3月1日現在

福島県33世帯82名

南相馬市4世帯 9名 いわき市6世帯17名 双葉郡富岡町7世帯18名
双葉郡大熊町1世帯2名 双葉郡双葉町2世帯4名
双葉郡浪江町5世帯13名 双葉郡広野町1世帯2名 田村市1世帯2名
福島市2世帯6名 二本松市1世帯3名 郡山市1世帯 2名 不明2世帯4名

岩手県3世帯5名

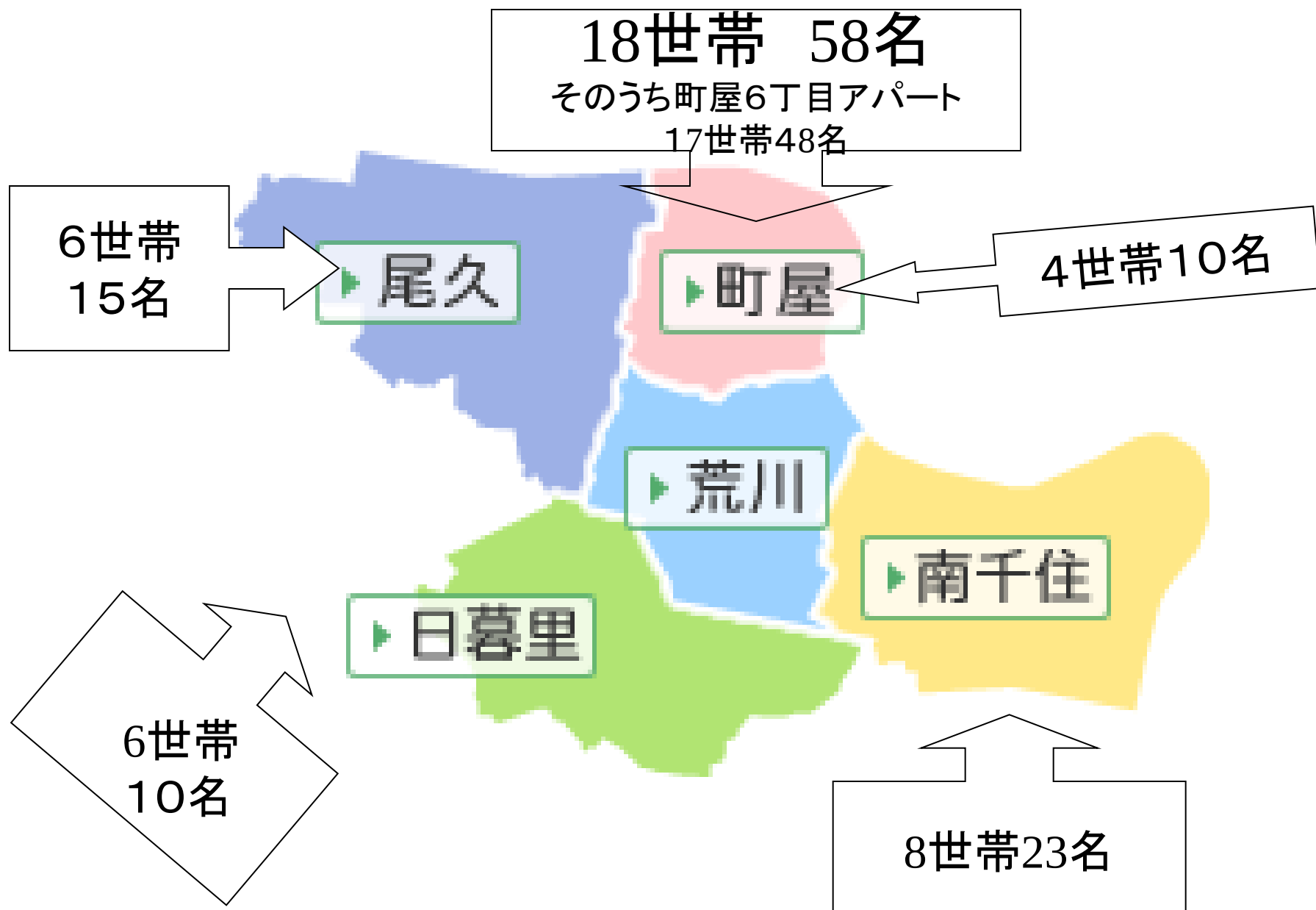
下閉伊郡山田町 1世帯2名 釜石市1世帯2名 陸前高田市 1世帯

宮城県2世帯5名 仙台市1世帯2名 宮城郡松島町1世帯3名

茨城県2世帯6名 ひたちなか市1世帯2名 日立市1世帯4名

未登録3世帯18名

※高齢者18名 障がい児者5名 家族介護者7名 こども17名

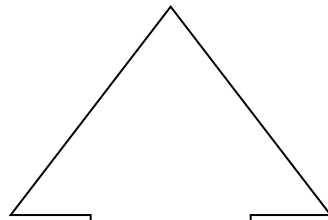


東日本大震災後の支援活動

1. 被災地支援の募金活動
2. 救援物資の区民からの募集、送付
3. 被災地などへの職員派遣
4. 区民の被災地支援活動への協力
5. 区内避難者への支援活動
6. 支援活動の報告

区内避難者への支援活動のスタート

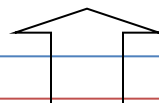
- 3月17日 区総合相談窓口から福島県原発事故により着の身着のままで避難してきた7人家族の衣類を
- 3月24日 緊急小口資金貸付 など



区民からの気持ちを被災者につなぐ

区民から被災地、被災者に何か支援をしたいという声がたくさん寄せられた

- 自転車・洗濯機、冷蔵庫等の生活物資がほしい
 - 区の事業等に参加するための送迎
 - 近所のお店などの情報やマップがほしい
 - 病院を紹介してほしい
 - 網戸・エアコン・扇風機がほしい
 - 長距離の歩行が困難な障がいのある方から
電動車いすがほしい



自転車商組合からのリサイクル自転車の提供
区民に呼び掛け必要な生活用品の募集
ボランティアの派遣 など

6月19日 日経新聞販売所より都内観光招待で 初めての交流



荒川区って東京じゃないみたい

「荒川区は、自分達の住んでいた町とあまり
かわらず、ほっとした」

「みんな親切で、声をかけてくれてとても暮ら
しや すい」

「病院も近くにあり、車椅子ごと行かれるの
で便利」

「物価も安くてよかった」

と私達に言ってくれるけど、

本音は、「早く、もとのところへ帰りたい.....」と
いう思い....



東京都の孤立化防止事業を受託

- 専従のコーディネーターをおき、戸別訪問事業における避難者と相談員のコーディネート、関係機関との支援ネットワークの構築、避難者への情報提供
- ・戸別訪問事業 相談員の設置 元民生委員 児童委員による避難者戸別訪問
- 避難者サロンの設置
- 被災地等の情報提供・啓発普及事業

東日本大震災被災者支援活動
**荒川区内避難者交流会
生活応援市**

東日本大震災から5カ月が過ぎ、長引く避難生活にお疲れのことと思います。この度、荒川区社会福祉協議会では荒川区とともに、区内に避難されている方が、安心して暮らせるように新たな支援の取り組みを計画しております。

さらに荒川区内に避難されている方々同士で交流をしたいという声を聞き、下記のとおり交流会の開催を予定いたしました。

また、同時に暮らしに必要な支援物資を皆さまに提供する「生活応援市」も実施しますので、ぜひお気軽にご参加ください。



日時：9月2日（金）午前10時～12時
午前9時30分受付・開場

会場：サンパール荒川4階第2集会室

交流会・新たな支援の取り組みの説明
・お茶を飲みながら相談・交流
・各種相談の受付

生活応援市 食品・コーヒー・紅茶などの飲料、油・醤油・砂糖などの調味料、洗濯・台所洗剤、衣類、傘、タオルケット、掃除機・扇風機・CDプレーヤーなどの生活用品から、必要なものを選んでお持ち帰りください。

参加費は、無料です。

参加ご希望の方は、同封のはがきにご記入し、8月30日までにご送付ください。場所がわからない方、歩行が困難な方はご相談ください。

主催・申込み・問合せ
荒川区社会福祉協議会 荒川区南千住1-13-20
電話 3802-2794 FAX 302-3831 E-mail: shomu@arakawa-shakyo.or.jp



生活応援市
被災地地域情報
&各地方新聞



区民から寄せられた
応援物資



交流会



一杯飲みながら交流会



お酒を飲むことで 本音が
顔と顔を合わせる機会が多くなるほど、話ができるつながりが

最初は様々な世代が交流会に一緒に集ったけれど、平成24年度から様々なバリエーションで交流会を実施



ホテルラングウッドからの年3回の会食 イベントに招待

- 若い世代の避難者も参加



平成24年9月からスタート 自主サロン町屋6丁目ミニサロン

- 毎月第4金曜日に開催



地域の自治会・ふれあいポリス・傾聴Vとのつながりをつくりながら、避難者交流会を 自分達の手で運営

・ 代表の井餘田さんと自治会長



弁護士会による相談もサロンで

- サロンの時に、弁護士が参加



福島県いわき市からの避難している遠藤さんを
コーディネーターとして採用



- ・同じ立場で相談を受けたり、情報を提供したり、
特に若い世代の人達へのメールで情報交換・子育て交流
など

- ・町屋6丁目住宅の居住者については、
世話役の井餘田さんが、毎週2回届く
「福島日報」「福島民報」の 回覧のしくみをつくり
あわせて各家庭の状況を把握
- ・町屋6丁目ミニサロンのお知らせや自治会
等に関わることもニュースをつくり配布

- ・被災直後の状況と、2年経過してからのニーズは、大きく変化

最初は、被災者のニーズと支援者の思いをつなぐことに力をいれてきた



- ・お世話になるばかりの存在ではなく、自分達も地域のために力を注ぎたいという思い
- ・避難者一人ひとりのニーズに 寄り添うことが求められている
- ・なにげない話やつぶやきから、ニーズをキャッチすることを大切に
- ・顔を合わせ、話を 聞く機会を多くもつことで 信頼関係を築くこと